

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078000108		
法人名	医療法人 十連会		
事業所名	グループホームじゅうれん		
所在地	福岡県久留米市三潴町西牟田6557-89 (電話) 0942-65-1555		
自己評価作成日	令和 2 年 2 月 9 日	評価結果確定日	令和 2 年 3 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、公園の一角にあります。リビングから見える十連公園の景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっているところでもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き四季折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までもこれからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切にしています。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心出来ます。職員も法人内部研修、外部研修にも参加しスキルアップに努めています。認知症対応型通所介護（共用型）も開設しています。住み替えのダメージも少なく馴染みの関係を作りながら住まいは変わっても地域で自分らしく暮らすことを大切に取組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www. kai gokensaku. jp/
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 27 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

清導寺池を一望でき、自然豊かな環境に事業所はある。十連公園の一角にあり、春には「桜並木」を楽しむ事ができ、季節感を身体で感じる事が出来る。母体が医療法人で、クリニック・介護医療院・通所リハビリ・小規模多機能型事業所・居宅介護支援事業所も併設している。住みよい環境の中に、医療も充実している。職員も法人内部研修・外部研修の参加もあり、スキルアップに努め、資格取得にも積極的に薦めている。働きやすい環境も考え、職員同士のコミュニケーションを含めチームワークが取れている。利用者の生活環境では、「その人その人の時間に合わせた時間を過ごす」を尊重し、ユニット間での交流も深めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域の皆様とあるがままの暮らしを】を理念とし地域社会の一員として地域の中で暮らしていることを認識し玄関先に理念をあげ実践に向け努力している。	職員会議で具体的に検討された理念を、職員が目にする場所（玄関前）に掲示している。月1度開催される勉強会で地域との関係作りを議題に、話し合いを行い、職員全員に回覧して周知している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(誕生会・敬老会・夏祭り・清掃)に参加。また中学生の職場体験学習・保育園児との交流などを行ったり、法人主催の春祭りを行い地域との交流を行っている。	地域コミュニティセンターで行われる誕生会・敬老会に参加している。職員は地域の清掃活動に参加し、地域住民との交流を深めている。法人全体で年1回行われる「春祭り」では、地域の方にも参加いただき、「介護相談無料窓口」を設置し、地域住民の相談窓口の役割を担っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会に参加したり、認知症予防血圧測定・健康管理についてのお話を行ったり関わり方、対応について相談にのっている。学生の体験学習やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度自治会・民生委員・尚寿会・包括支援センター・行政職員を交え事業所の活動状況や日々の様子をスライドショーで紹介しご意見やアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。また時には、希望に応じ情報提供も行っている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。自治会、民生委員、尚寿会（地域老人会）などが参加している。地域活動・日々の過ごし方や行事時の様子等を報告しており、家族からは普段の面会時に利用者についての相談なども取り上げられている。身体拘束研修で行われた内容は毎回の運営推進会議で報告をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員・包括支援センターの方に参加して頂いたり、事業所の実情を説明しどのような対応が良いのか気軽に相談している。現在じゅうれんサロン等を実施しているが、相談したり参加いただいている。	包括支援センターより「認知症について」の市民講座の講師派遣の依頼があるなど、市町村との協力体制も整っている。法人全体では「健康相談窓口」を設置し、介護での相談なども受付けている。「いきいき介護フェスタ」に参加し、市民からの意見を伺い、相談も受付けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み外部研修にも参加し拘束について学ぶ機会を作り意識付けしている。マニュアルも準備している。身体拘束廃止委員会を作り地域運勢推進会議にて身体拘束を行わないための活動の報告や事例の報告を行っている。	身体拘束マニュアル（身体拘束ゼロへの手引き等）を作成しており、職員にも配布している。研修の際には、身体拘束事例を取上げて、各自のケアを振り返る機会を得ている。研修は毎月行われており、研修に参加の職員には回覧で身体拘束廃止について周知徹底している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組み外部研修にも参加し拘束について学ぶ機会を作り意識付けしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり関係機関の方と勉強させていただいている。施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議においても説明したりしている。外部・内部研修にも参加し学ぶ機会を作っている。	事業所の見学時・申込時には権利擁護パンフレットを利用して説明を行っている。社会福祉士会との連携もあり、相談できる環境でもある。久留米成年後見センターの制度についての案内も行っている。事業所内にポスター等を掲示して、利用時の相談など準備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時から家族の希望を伺い本人同行で見学や遊びに来て頂いている。入居時には、契約書・重要事項説明書・医療連携についても説明し納得を確認・同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、常に意見を聞くようにしている。ご家族とのコミュニケーションを心掛け意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。介護相談員の訪問の受け入れも行いご意見を頂いている。玄関入口にご意見箱を設置している。	外部からの月1度介護相談員の訪問があり、入居者と面談を行っている。介護相談員面談後の入居者に関する事は、責任者と連携が図れている。ご家族からの意見等は面会時に家族と面談を行い、利用者の身体状況・生活状況を報告をしている。意見箱は玄関に設置している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会やミーティングで気づきや意見を話し合い多くの意見を求め自由に検討できる環境作りを行っている。現場職員の意見や提案は、大事にしている。	勉強会で職員各自で意見交換を行っている。法人全体で「職員アンケート」を配布し集計を行っている。具体的な意見がある場合は、ミーティングの議案にして現場職員の話し合いを行い、意見として取り入れている。業務報告書・記録書式を改善されている。管理者も職員との面談を行うなど意見を聴取して運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、資格(介護支援専門員)を取ったり外部研修を希望する向上心を持っている。結婚・出産後も働けるように職場環境を整え働きやすい環境作りを努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は行っていない、面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行っている。得意分野が発揮でき生き生きと勤務できるように支援している。	定年はあるが再雇用も出来る。 職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は行われていない。職員の目標を持ち資格取得の為、勤務調整のサポート等、個々のスキルアップを支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人が契約している研修サイトにて人権研修を行い、同じ内容の物を全職員が視聴し学習している。	権利擁護や高齢者虐待防止、法令遵守、認知症ケア等の内部研修は、パソコンを利用して実施し、参加出来なかった職員についても伝達研修を行っている。日々の関わりの中でも、その都度、振り返る機会を設け、新人職員については、入社日よりオリエンテーションで必ず説明している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。働きながら資格が取得できるようにまた研修が受けられるように機会を作っている。新たな資格取得の為には勤務の調整等支援を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡県グループホーム協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。また地域のグループホームの推進会議に参加しお互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の意向を確認し情報収集を行い安心できる環境を作っている。二人だけの時間を作り個別対応や本人の思いをしっかりと聞いて馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望されている理由や困っていることをしっかり面会時に把握し安心して任せていただけるように努めている。お互い情報交換し職員全員で共有しながらご家族とも密に連絡を取ったり信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時グループホームは、もちろん各サービスの説明も行っている。必要に応じたのグループホームへの見学も勧めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活しているという考えの基本を大事にしている。出来ない部分は、手伝い得意分野は、腕をふるっていただいたり教えて頂いたり共に支え合う一緒に生活しているという関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りを通し生活状況を伝えている。面会時には、日頃の様子をお伝えしている。家族と共に楽しめるイベントを開催したり日頃の状況をスライドショーでお見せしたりご家族で楽しいひと時を過ごせるように絆を大切にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に制限は設けておらず、兄弟からの電話、ご家族への年賀状などなじみの方との関係も途切れないように支援している。また地域との交流を行うことで利用者と地域の方が顔を合わせることが出来る機会を設けている。	利用者は地域の方も多く、近隣の知り合いなどの来訪も多い。面会時間・曜日の制限もなく馴染みの人の関係作りが出来ている。近隣から野菜の差し入れがある等地域住民との触れ合いも深めている。家族との面会が多く、利用者と共に会話も弾んでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で築いてきた人間関係は、尊重し、仲の良いご利用者同士、一緒にお茶を飲んだりお話出来るようにまた孤立しないようにスタッフも一緒に輪の中に入って支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に行かれてもその生活状況を聞いたり、面会に行ったり状態を聞いたりしている。中には、様子を報告に来られたりする方もありいつでも相談にのりますと説明することもある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、ご家族より希望や意向をお聞きしご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意志を伝えられない方は、表情や動作などで把握しご家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。	一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握については、入居時に本人、家族からの情報提供に基づいてアセスメントされケアプランに反映している。意向の把握が困難な場合は、家族の協力や職員間で検討及び情報の共有で対応している。日々の暮らしのなかで、ホームの基本理念である「あるがまま」を大切にし、利用者本位に努め、支援に取り組んでいる。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中から確認しながら生活支援を行っている。知人、親類など面会時に情報を得られるように声掛けを行いお話をさせて頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は、申し送り記録、個人記録で共有できるようにしている、生活の質の向上を目指している為、日々の変化の記録を大切にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大切に本人、ご家族の要望を聞き多職種と検討を行い意向が反映される介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス・モニタリングを実施している。	介護計画の作成、見直しはモニタリングも含め 3～6ヶ月の間隔で、関係者間で検討実施されている。カンファレンスは毎月実施され、利用者の身体状況の変化に対応し都度、見直しを行っている。見直し後の介護計画の内容については、家族に確認をしてもらい、記名、捺印にて了承、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録されている為日々の変化がカンファレンス・モニタリングに活かされよりよいケアが提供出来るようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向状況に応じ対応を行っている。医療法人併設の為医療連携も万全でありご希望により看取り支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長・民生委員・保育園など日々の生活で交流がある。日々の散歩や買物外出を通じご近所の方々より声掛け頂いている。地域行事等にも参加し地域の方々とも交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居時にかかりつけ医について家族と相談しており希望に応じてかかりつけ医と連携を行っている。	受診は、入居前のかかりつけ医及び母体法人のクリニック、どちらでも選択可能となっている。往診は毎月併設クリニックより回診、訪問歯科及び他科受診等の支援が実施されている。看護師が常駐しており、日常の健康、体調管理や緊急時のオンコール体制(夜間帯)等、安心に繋がる医療連携体制が構築されている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して入院治療ができるように支援している。入院時には、訪問し情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く家族や馴染みの職員の中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設医療院との協力体制も確保している。	「重度化した場合における対応に関する指針」が明文化されている。入居時に、利用者、家族に指針の内容説明を行い、同意を得る取り組みが行われている。利用者の重度化傾向に対応して、早い段階から本人の意思・家族の意向等を確認している。その上で、方針の共有を図り、医療連携(併設のクリニックの協力等)のもと、チーム支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応出来るよう酸素や吸引器を常備している。また対応マニュアルも整備している。法人内の研修やグループホーム勉強会時に(ADE・心配蘇生法)使用法についても定期的に行い学ぶ機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時を想定したマニュアルがある。年2回災害を想定した訓練を行い地域の方にも声かけている。非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄も備えている。	消防署の協力を得ての災害非難訓練及び夜間想定避難訓練等、定期的実施されている。また、非常災害マニュアル(地震水害含む)の整備や非常用の備品・食料・飲料水等は併設同関連施設に準備されている。AEDの設置、取り扱い訓練及び防火設備等の管理・点検等も定期的実施されている。	非常災害時における非常食や飲料水、備品等の保管が現状において、隣接する母体法人での管理となっているが、ホーム内での保管・管理をして欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について了解を頂いている。一人一人の人格を尊重し生活歴を踏まえ自尊心を傷つけない対応、声かけを行っている。無理強いしない言葉や態度不愉快にさせないよう言葉かけなど特に心掛けている。	利用者の尊厳の確保やプライバシー保護等については、定期的に研修、勉強会等で検討され、職員間で共有する取り組みを行っている。日々のケア活動においては、利用者一人ひとりの自尊心やプライバシーに配慮した支援を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切に、本音や希望を言える雰囲気を作ること、スタッフにわがままを言えるような関係作りを努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず意見が決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先し無理強いせず言葉かけや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努めている。在宅生活の延長でありたいとの思いで支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切に、ご家族とも話をしながら衣類等の持ち込みをお願いしている。外出や誕生日等特別な日には職員と一緒に衣類を選んだりしておしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れ一人一人の状態に合わせた形態や食欲がでる色彩にも気を使っている。出来る方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むき等を手伝って頂いている。	食事は、2ユニット合同で、職員と一緒に和やかな食事風景である。テーブルには季節の花が飾られ、家庭的で和やかな雰囲気が感じられる。食事準備や配膳、下膳等、利用者が出来る事は職員と協力して積極的に行われている。食事は栄養バランスに配慮された旬の食材が並んでいる。旬の野菜等は利用者の家族からの提供も珍しくない。時には、利用者のリクエストや行事食などが提供され、食事を楽しむことのできる支援が行われている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事水分摂取量の把握に努め、入りが悪い時には口に合う別メニューを用意したり飲み物を用意し確保している。ミキサーやトロミ又補助食品で対応することもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人一人に合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声掛けしたり、汚れが落ちているかチェックを行い上手に出来ない方には最終に仕上げを行い清潔保持に努めている。必要に応じ歯科医の訪問指導を受け入れ状態にある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め本人のサインを見逃さないようにしている。気持ちよい排泄が出来るようにスタッフで検討し支援している。	トイレは各ユニットに3か所、合計で6か所配置されている。利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣及びその日の体調やサインを考慮に入れ、早めの誘導を試み、トイレでの排泄及び排泄の自立支援を職員間で共有している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維を多く取り入れて水分確保、適度な運動を心掛け便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者様の健康状態を観察しながら入浴支援を行っている。季節毎に入浴剤、バラ湯、柚子湯等にし楽しんで入浴して頂いている。コミュニケーションをとるよい時間となっている。汚染時などには臨機応変に対応している。	利用者の健康状態に配慮しながら、入浴支援を行っている。入浴は毎日可能となっているが、基本的には週3回の入浴となっている。入浴を拒否される方には、無理強いはなく、スタッフ間で連携対応している。季節に合わせて柚子湯や入浴剤の活用、入浴後の保湿ケア等、楽しんで入浴ができる支援が行われている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、生活習慣や体力に合わせ、レクや散歩などをして過ごして頂き、夕食後からは就寝へ向けての、環境作りを心がけ温かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたり一緒に過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し職員が入居者一人一人の内服している薬の変更、臨時薬の処方、処置内容等を記載し情報の共有を行い状態観察をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き、料理、裁縫、編み物など得意分野の力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩して気分転換している。飲み物は本人希望で緑茶、コーヒー、紅茶等セレクト提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近郊の公園へ季節を楽しむように外出を行っている。季節ごとの花を見に行ったり、外食等を計画し外に出る機会を作っている。	日常的な外出支援については、一人ひとりのその日の希望、体調に配慮しながら、近隣の池のほとり(桜並木)や公園を散歩することを日課としている。少し遠方の場所への外出も積極的に企画し実施している。入居前に住んでいた場所、季節の行事、買い物、ドライブ、外食等多彩で、積極的に外出支援が実施されている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ちたいと希望される方は家族の了解のもと自己管理して頂いているバスハイク、外食時には自分で支払いされる方もある。買物の希望があれば個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけて頂き、遠方ではなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状、暑中見舞いは(本人の写真入りで)ホーム便りを送り近状報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには、季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り窓から外を眺めることで、季節感を感じられるようにしている。バルコニーにも季節を感じられるように花やハーブを栽培している。ホール内ではソファや椅子等好きな場所へ座って頂き居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	共用空間は、窓からの景観も自然に溢れ、天窓からの日差しを取り入れ、開放的で明るい雰囲気となっている。自作の作品やカレンダーが適度に飾られ、季節の花など「やすらぎの場」となっている。リビングの長い通路は軽い運動に利用され、ユニット間の交流の場として活用されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ホールにはソファ、和室を準備し入居者同士で寄り添い談笑したり、一人で座ってのんびりできる空間を大切にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ち込んで頂いたり家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。	居室は、清潔で安全に配慮され、明るく余裕のあるスペースが確保されている。各部屋は各々個性的な部屋作りで、利用者や家族の馴染みの物が持ち込まれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は入居者の方の状況に合わせた配慮を行い全面バリアフリーとなっており廊下には手すりを設置したり、車椅子自走も安全に行えるように十分なスペースも確保している。トイレも出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。ADLの変化に合わせて検討している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
			○	③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念【地域の皆様とあるがままの暮らしを】 地域でのなじみの関係を継続したまま生活していただきたいと思い日々支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(誕生会・敬老会・祭り)に参加したり地域の方へ事業所の行事に来て頂くように呼びかけしている。また中学生の職場体験学習受け入れ・保育園児との交流会など日常的に行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会に参加したり、認知症予防、健康管理についての講演を行ったり認知症の方への関わり方、対応について相談にのっている。学生の体験学習やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度自治会・民生委員・尚寿会・包括支援センター・行政職員を交え事業所の活動状況や日々の様子をスライドショーで紹介しご意見やアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。また時には、希望に応じ情報提供も行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員・包括支援センターの方に参加して頂いたり、事業所の実情を説明しどのような対応が良いのか気軽に相談している。地域のサロン等共催や連携を相談したり提案いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み外部研修にも参加し拘束について学ぶ機会を作り意識付けしている。マニュアルも準備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が学ぶ機会を作っている。メディアの報道などにも敏感で防止の徹底の意識付けを行っている。職員のストレスチェックを実施し心の変化に早期対応できるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられ関係機関の方と連携できている。施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議において説明したりして制度の周知を行っている。外部・内部研修にも参加し学ぶ機会を作っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時から家族の希望を伺いまず本人さんと一緒に見学に来て頂いている。入居時に、契約書・重要事項説明書・医療連携についても説明し納得を確認・同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の声に耳を傾けている。家族には普段から話しかけ壁をなくす努力をしている。介護相談員の訪問の受け入れを行ったり玄関入口にご意見箱を設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会やミーティングで気づきや意見を話し合い多くの意見を求め自由に検討できる環境作りを行っている。現場職員の意見や提案は、大事にしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	負担の少ないシフト割を心掛けて作成している。結婚・出産後も働けるように勤務時間の配慮もしている。職場環境を整え働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たって制限はない。面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行っている。得意分野が発揮でき生き生きと勤務できるように支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体の職員を対象に人権学習が開催され全職員に意識付けが行われている。当日参加できなかった方は、近日中に、受講が実施義務づけられている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。研修も勤務の一環とし実践者研修やリーダー研修など長期の研修も受講できている。研修で学んだことを日々の介護現場の中で他職員にも伝え広めている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡県グループホーム協議会に加盟している。参加した研修で名刺交換し交流が続くよう努め不定期だが情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意向を確認し情報収集を行い安心できる環境を作っている。二人だけの時間を作り個別対応や本人の思いをしっかり聞いて馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望したいことや困っていることをしっかり把握し安心して任せていただけるように努めている。お互い情報交換し職員全員で共有しながらご家族とも密に連絡を取ったり信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族が望む支援を入居をいう形にこだわらず法人内の他のサービスや他事業所のサービスなど提案している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活しているという考えを基本に、共に笑い、考え、時には怒られながら日々を送っている。できることはお願いし、できないことは一緒にするよう心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の関係性を見ながら普段の様子や出来事を伝えている。昔の話を聞くこともある。また毎月写真入りのお便りを作成し送っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望に応じ家族と調整し自宅へ出かけたり送迎している。知人からの電話、兄弟への年賀状、電話などなじみの方との関係も途切れないように支援している。お友達の面会も多い。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースを活用し会話の場を作っている。一人が好きの方も閉じこもりにならないよう他者との距離を保てるよう配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に移動の際はご本人の情報をしっかりつたえ移動後は面会に行ったり状態を聞いたりしている。中には様子を報告に来られたりする方もおられ、いつでも相談にのりますと声掛けしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、ご家族より希望や意向をお聞きしご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意志を伝えられない方は、表情や動作などで把握しご家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中で確認しながら生活支援を行っている。知人、親類など面会時に情報を得られるように声掛けを行いお話させて頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は、申し送りノート、個人記録で共用できるようにしている、生活の質の向上を目指し日々の変化の記録を大切にしている。毎月カンファレンスを実施している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大切に本人、ご家族の要望を聞き多職種で検討を行い意向が反映される介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス・モニタリングを実施している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録しており日々の変化をカンファレンス・モニタリングにつなげ、よいケアが提供出来るように計画している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向に応じ対応を行っている。クリニック併設の為医療連携も万全である。散歩やドライブなどの希望も、その方の希望に応じて実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長・民生委員・保育園など日々の生活で交流がある。日々の散歩や外出を通じご近所の方々より声掛け頂いている。地域の祭りや公民館での行事にも参加し地域の方々とも交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居時にかかりつけ医について家族と相談しており希望に応じてかかりつけ医と連携を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護職員を配置しているのでバイタルや食事量、状態をすぐに報告でき迅速に対応できる体制にある。普段からコミュニケーションが取れている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して入院治療ができるように支援している。入院時には、訪問し情報交換を行い退院や退院後についての話をするようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く家族や馴染みの職員の中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院との協力体制も確保している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応出来るようマニュアルを整備し酸素ボンベや吸引器、AEDを準備している。法人内の研修やグループホーム勉強会時に(ADE・心配蘇生法)の定期的学ぶ機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時を想定したマニュアルがある。年2回災害を想定した訓練を行い地域の方にも声かけしている。非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄も備えている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について了解を頂いている。一人一人の人格を尊重し生活歴を踏まえ自尊心を傷つけない対応、声かけを行っている。無理強いしない言葉や態度不愉快にさせないよう言葉かけなど特に心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし、本音や希望を言える雰囲気を作ることで、スタッフにわがままを言えるような関係作りに努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず意見が決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを最優先し無理強いせず言葉かけや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努めている。在宅生活の延長でありたいとの思いで支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切にし、毎日欠かさずお化粧を続けている方もある。自分で出来なくなった方も、家族の思いを大切しスタッフがやっている。外出や誕生日等特別な日にはおしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れ一人一人の状態に合わせた形態で提供している。出来る方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むき等を手伝って頂いている。おやつ作りも行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事水分摂取量の把握に努め、摂取量が少ない方には別メニューを用意したり好みの物を用意している。ミキサーやトロミ剤、高カロリー食品で対応することもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人一人に合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声掛けしたり、汚れが落ちているかチェックを行い上手に出来ない方には仕上げを行い清潔保持に努めている。歯科医の訪問指導をお願いしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め本人のサインを見逃さないようにしている。気持ちよい排泄が出来るようにスタッフで検討し支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維を多く取り入れて水分確保、適度な運動を心掛け便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者様の健康状態を鑑みながら入浴支援を行っている。季節毎に入浴剤、バスタブ、柚子湯等楽しんで入浴頂いている。コミュニケーションをとるよい時間となっている。汚染時など臨機応変に対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、生活習慣や体力に合わせ、レク、散歩などをして過ごして頂き、夕食後からは就寝へ向けての、環境作りを心がけ温かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたり一緒に過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員を中心に職員が入居者一人一人の内服している薬の変更、臨時薬の処方、処置内容等の情報がわかるよう統一した管理ができています		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き、料理、裁縫、編み物など得意分野の力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩して気分転換している。飲み物は緑茶、コーヒー、紅茶、ジュース等希望に応じて提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣の公園へ外出し季節を感じていただいている。本人希望にて買物支援も行っている。ご近所の方からお花を頂くこともある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ちたいと希望される方は家族の了解のもと自己管理して頂いている。外食時には自分で支払いされる方もある。買物の希望があれば個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけて頂き、遠方ではなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状、暑中見舞いは本人の写真入りで)作成したりホーム便りを送り近状報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節に合わせた作品を飾るようにしている。バルコニーにも季節を感じられるように花やハーブを栽培している。ホール内ではソファや椅子等好きな場所へ座って頂き居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。整理整頓に心掛け移動がスムーズにできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ホールにはソファ、和室があり仲良しの入居者様同士のんびりと過ごせるようにしている。テラスにもテーブルや椅子を設置しいつでも利用出来るようにしている。食卓も分割しており自分の時間を過ごすことができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ち込んで頂いたり家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は入居者の方の状況に合わせた配慮を行い全面バリアフリーとなっている。廊下には手すりを設置し車椅子でも安全に移動できるように十分なスペースを確保している。トイレやお風呂も出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。ADLに合わせ活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
			○	③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		